

シグマ研究専門委員会・軽・中重核 W. G. 議事録

日 時 昭和54年11月14日(水) 13:30～17:30
場 所 日本原子力研究所東京本部第35会議室
出席者 田中(原研), 浅見(原研), 西村(原研), 関(原研),
神田(九大), 村田(NAIG), 山越(船研), 八谷(三井造船)
伊尾木(MAPI), 畦倉(日立), (順不同, 敬称略)
(北沢氏(東工大)は米国に留学中)

配布資料

1. シグマ運営委(S 54.10.22)の議題
2. NEADBのNEW FORMAT SPEC.
3. NEANDCのHigh priority measurement requirementsの内
APPENDIX "High priority requirements for the Fusion Programme"
4. JENDL-2 評価進行情況
5. バナジウム評価のグラフ
6. Cr, Fe, Ni の evaluation (JENDL-2)

議 事

1. 一般報告(田中) 資料1によって, 運営会議の議事の説明がなされた。
また, NEADBのJohnston氏が核データ・センターを訪門し, NEADB
の従来のNEUDADAに代る, 新FORMAT(資料2)に対する意見聴取
が行なわれた旨の報告があった。

NEANDCではWRENDAの見なおし作業が行われている旨の報告があり, また資料3のAPPENDIXによって, 米国の核融合核データの要求と日本からの要求の違いが討議された。特にFMIT用核データなどは50 MeVまでのデータが米国では要求されているが, 日本ではどうかという問題が討議された。

運営委で JENDL-3 構想が討議されている旨の報告があり、これに対して、当 W.G.としては融合炉核データを充実させるべきであるという意見が強かった。

2. 評価作業の経過報告

まず、田中氏から資料4によって、JENDL-2 評価作業の全般の進行情況の説明があり、浅見氏からCGの作業予定により評価結果のCGへの手渡しは、今年中にして欲しい旨のアナウンスがあった。

次いで、各評価担当者から、次のような評価の経過報告があった。

He-4, Li-6, 7 (菰田) 欠席のため、詳細については不明、可成り進行しているらしい。

Be-9 (伊尾木) 評価済み。

F-19 (西村, 杉) 100 keV 以上すみ、100 keV 以下の評価については、杉氏とコンタクトすること。

Al-27 (中島) JENDL-1 のみなおし、未済。

Si-アイソトープ (浅見) 未済の部分が少しある。

Ca-アイソトープ (八谷) Ca-42, 43, 44, 46, 48 に対する評価を今後行う。

Ti-アイソトープ (小林) 未済の部分が少しある。

V-アイソトープ (田中) 資料5によって評価結果が説明された。

Cr-アイソトープ (浅見) } Niも含めて、資料6によって、浅見氏から
Fe-アイソトープ (山越他) } 評価結果が説明された。

Nb-nat, 93 の thres. rtaction (神田) アイソマーに対する実験データがないために、計算結果のアイソマーへの割り振り方に困っている。

Mo-アイソトープ (北沢) 北沢氏不在のため、神田氏が来年2月末までに試ることにした。

3. 構造材核データ評価の現状説明 (浅見) (上記の通り)

以上